

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372500856		
法人名	有限会社富士松		
事業所名	グループホーム輪楽笑		
所在地	春日井市白山町5丁目5番地の2		
自己評価作成日	令和元年 8月 3日	評価結果市町村受理日	令和元年11月 7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2372500856-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年 9月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個人の能力に応じて日常生活の中で機能回復訓練を行い。精神的な安定が得られるようお手伝いをさせて頂き、共にお互いの人格を尊重し励まし合いながら、出来るだけ自分のペースで生活をして頂けるよう毎日元気で楽しく笑いながら共に”今”を生きるホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「やれることは自分で」と、職員は見守り中心の支援を行い、「やりたいことをする」個の尊重を柱に、ホーム理念「ゆっくり楽しくみんなですごく」を実現している。利用者は全員が自分の居室を掃除し、花の水やりから食事、洗濯、畑仕事と、役割を持って活躍している。リビングでは皆で体操やレクを行い、やりたいことがあれば自ら申し出て、各居室で書道や裁縫、刺し子や読書を楽しんでいる。訪問当日に、「鳴子が鳴ったら即避難」の訓練があり、一度逃げた利用者が戻って来て、気づかない利用者の手を引いて避難する微笑ましい場面が見られた。もう一つの柱、個別外出支援も強化されてきた。行きたいところへ行き、食べたい物を食べる。ホームの方針に理解のある家族の協力を得て、実現に繋げてきた。今後は個々の趣味や興味に着目し、さらに個別支援を進めていく考えである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	2. 利用者の2/3くらいの	3. 利用者の1/3くらいの	4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	2. 家族の2/3くらいと	3. 家族の1/3くらいと	4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	2. 数日に1回程度ある	3. たまにある	4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	2. 数日に1回程度	3. たまに	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	2. 少しずつ増えている	3. あまり増えていない	4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	2. 職員の2/3くらいが	3. 職員の1/3くらいが	4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	2. 家族等の2/3くらいが	3. 家族等の1/3くらいが	4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が	2. 利用者の2/3くらいが	3. 利用者の1/3くらいが	4. ほとんどいない						

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝夕の玄関の掃除、花の水やりの中で行き交う他人との挨拶や会話を通じて、外との交流で笑顔を絶やさない様続けている。	ホーム理念は職員に浸透しており、利用者が楽しく元気に暮らせるよう支援している。「自分でできる事は自分で」と、見守る支援で利用者の自立度維持に努めている。訪問時でも一日中笑い声がホームに溢れていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	盆踊り、クリーン作戦をホーム内での行事を町内の回覧板を通してお知らせし地域の皆さんの参加を呼びかけている。 (他に花火大会。クリスマス会など)	清掃活動等の地域行事には積極的に参加し、近隣住民はホーム前を通りかかると気軽に声をかけてくれる。ホーム行事のクリスマス会は地域にも浸透し、地域住民の楽しみにもなってきた。	近隣にはホームの存在が認知され、交流が図られている。今後は小学校や中学校など、新たなアプローチも視野に入れており、その取り組みに大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の散歩などで積極的に地域の人と接触を試みている。挨拶や会話が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の地域の役員、包括担当者、利用者ご家族との意見を参考にしサービス向上に努めている。	同法人のグループホームと合同で年6回開催している会議には、地域や行政、家族と多数の参加が得られており、議題も多岐にわたる。ホームの近況報告に質問やアドバイスがあり、ホーム運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度上不明な点はその都度相談し、生活保護者様の入居に際しては、市側からの指導等を受けて入居に繋げている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が毎回参加しており、相談や質問がいつでもできる関係を築いている。今年度は市の依頼で、措置の方の受け入れを行った。市主催の研修には積極的に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日常生活元気に、楽しく、笑うをスローガンに支援している。	職員会議の中で拘束についての勉強会を行い、職員は共通認識の下、研鑽を図っている。利用者のケアに苦慮する場面では、即座に対応する職員が交代し、スピーチロックを含め拘束を排除する取り組みを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	目に触れるところに関係小冊子を設置して意識向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例会議の場でケアプランに基づき、個々に於いて必要に応じて支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に係わりの有るご家族様と話し合う時間を設けて、十分にご理解のもとで入居日等を決めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の定期通信、来場された際にご家族様の思いなどを聞き、日常生活の中に反映させている。	家族の来訪時には近況報告をし、家族意見の聞き取りを行っている。家族はホームの運営に理解があり、協力的である。ホーム通信のほか、利用者個々の様子を毎日記録した通信は、家族の好評を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ定例会議の中から日々の意見を常に耳を傾け必要に応じて業務に反映させている。	在職年数が長い職員が多く、管理者と日常的に意見交換できる環境が整っている。管理者は職員の様子に目配りし、気になれば随時個人面談を行っている。職員からは「何でも相談できる」との声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃よりスタッフがやりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ個人個人の向上心の為、研修等に参加に後押しをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修やブロック会議を通して交流を図り、必要と思われる事項は取り入れサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	体験入居により事前に本人の意向、ご家族の思い等をくみ取りサービス計画書に従った支援をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験入居までに本人はもとよりご家族の思いに寄り添い支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の事前情報提供により地域包括病院等を早い段階で開示して、不安の無い様に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居されている人と共に泣いたり笑ったり、怒ったりして日常生活を繰り返して信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の通信の送付で日常の生活をお知らせしている。 緊急時に於いては電話にて来所を促し不安を解消している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所、外出、文通そして今まで生活していた所へ散歩やドライブをする事で支援している。	馴染みの美容室や思い出の場所への外出など、個別に関係継続を支援している。家族宅で宿泊する利用者もいる。それぞれの居室で書道や裁縫、刺し子、読書など、それまでの趣味や習慣を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	折り紙、ちぎり絵、ゲームなどを通じてグループホーム輪楽笑で支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人及びご家族の状況を把握し必要に応じて電話などで支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	時折自室で過ごしたい時、入浴の有り無しは本人の意向に沿うよう努めている。「食べたい」「行きたい」に於いては家族の協力のもと実現で来ている。	利用者の趣味や嗜好を参考に、したい事、食べたい物を会話の中から常に探る取り組みをしている。居室の掃除時や入浴介助時は絶好の機会と捉えている。得た情報は申し送りノートに記入して情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時よりご家族からの多くのじょうほうを得てサービスに取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知の現状を踏まえ脳トレ、絵手紙、折り紙などを取り入れ心の豊かさに支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を正しく把握する為、モニタリングを共有し問題点などを多くを抽出して計画に反映している。	職員全員がモニタリングを行い、計画作成担当者がまとめ、カンファレンスで話し合っ4ヶ月毎の見直しに繋げている。利用者や家族の具体的意向を反映した、明確で分かりやすい介護計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録に出来るだけ細かく漏れの無いよう記録し情報の共有化を図っている。見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院や美容院への外出には柔軟に対応し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	花火大会、盆踊り大会、清掃活動に参加し地域の人々との関わり合いを楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療、電話での対応、そして緊急時には先生の往診が出来る体制を整えている。又歯科、皮膚科に於いても月1回の訪問診療を受けている。	24日時間対応のホーム協力医が月1回往診しており、皮膚科と歯科の往診も受けられる。その他の専門科の通院もホームで支援している。看護職員の配置があり、緊急時には看護職員の指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護スタッフによる健康管理、医療的処置など相談と助言を受け個々の対応に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員と連絡を取り、利用者が不安にならない入院退院が出来るよう、ご家族と綿密な話し合いをして出来るだけ早期退院が出来るよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム、専任看護師、医師、家族の4者で話し合い。今、最大限できる事を共有化している。	入居時に、「条件を満たせばホームで看取りを行う」との方針を説明している。必要な時期に協力医の判断を仰ぎ、家族とホームで話し合った後、家族は協力医を訪ねて説明を受けている。移行先の案内を含め、利用者にとって最善の方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回救急隊員による救急法等を学び事故等に供えてる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	零の付く日に火災、地震、夜間を想定して利用者全員参加で実施している。習慣づけとして「鳴ったら避難」も併せて実践している。	年2回の避難訓練に加え、月3回「鳴子が鳴ったら即避難」の訓練をしている。消防による救命救急講習は、職員と一緒に利用者も受けている。職員の気づきで、歩行困難者の救助方法が多様化された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに目を向けて、声掛け会話をす。姓名、名前或は浸し見やすい”あだ名”で声掛け対応している。	利用者の生い立ちや環境を理解し、その人に適した接し方をしている。何事も自分で決めてもらうことを重視し、本人のやりたいことができる暮らしを支援している。年長者として敬意、話を傾聴することは基本である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との雑談等で自分の思いや希望など話す事が多く向えられる。各自の個性を尊重して穏やかに過ごせるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各自の個性を尊重し本を読むなど穏やかに過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選び、スタッフに見せ「これで良いですか？見て！」の会話を通じて、季節に合った服装等に声掛けしながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で収穫した野菜など利用者と一緒に収穫体験し、それを元に献立を考えテーブルに並ぶことが楽しめるよう支援している。	季節感を大切に、収穫した野菜を利用しながらその日の献立を決めている。利用者は買い物出しに同行し、簡単な調理から片付けまでの全ての場面で活躍している。家族の協力を仰ぎ、月1回程度外食の機会がある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー表を基に栄養バランスをチェックし、水分補給は居間にお茶を常備して24時間何時でも飲めるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回の歯科訪問診療による受診と口腔ケアを実施している。又、毎食後声掛け見守りで清潔保持を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員のトイレでの排泄は自立しているが、便秘気味の方は”排泄表”を作成しそれを基にチェックし支援している。 ”排泄表”は利用者より排泄したしないの報告を頂きチェックしている。	自立度は高く、見守り中心の支援を行っている。時間が空いていると気づいたときは声掛けをし、失敗に繋がらないよう努めている。記録からその人の間隔を把握し、夜間は声掛けして誘導することもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	”便秘予防体操”を取り入れたり、食物繊維の多い食事に心掛けている。またそれに合わせて水分補給を勧めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	常に清潔を基本に柔軟な対応で入浴、パイル、体温管理の確認を実施。入浴時には保湿剤を使用するなど支援している。	1日4～5名、1日置きの入浴を基本とし、気分に合わせて無理強いせず、入浴順も固定していない。冬場はゆず湯や入浴剤で保湿や保温にも配慮し、会話を楽しみながら寛ぎの時間となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	二日に1回のシーツ交換により清潔を保ち、その日の体調により室温、寝具の調整をし安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず”薬”は手渡しで服用時は見守り声掛けをして確認をしている。変化があれば良しに報告をし指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人個人の趣味や特技を出来るだけ活かしたレクや作品の制作に出来るだけ役立つように心がけ楽しめるようにしている。 例：調理、洗濯干し、水まき等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常に全員参加を基本として外出。他に月2回の2～3名の外出と日々の散歩に努めている。家族の面会や外出、外泊に於いても協力支援をしている	散歩や畑での野菜の収穫、花の水やり、玄関先のベンチで寛ぐなど、外気に触れる機会は多い。花見や莓狩り、映画鑑賞等の企画外出も毎月行われ、一人ひとりの希望に合わせた個別外出支援も行われている。家族支援による外出も一様に多い。	これまでも利用者の希望に合わせた個別外出支援を行っているが、趣味や興味に合わせた個別の外出の機会を増やしていく意向である。その取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出に於いては買い物を楽しむを取り入れ、自分のお小遣いの範囲内で“買う”を体験し喜びを感じてもらおう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に携帯電話の持ち込みをしてもらい自由に通話をしてもらっている。手紙のやりとりも自由に又、その他年賀状は勿論暑中見舞いなどは全員参加で支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、食堂は明るい日差しが入り居心地の良い場所であり、掲示板には利用者の写真や作品等が掲示され、庭に目を向ければ四季折々の花が楽しむことが出来、心が和むよう支援している。	広いリビングには楽し気な利用者の写真や書道などの作品が飾られ、利用者が一緒に掃除をして清潔を保っている。中庭には様々な果物の木や花が植えられ、ティータイムを楽しむ憩いの場となっている。裏の野菜畑でも水やりや収穫など、活躍の場がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂には共同スペースを設け個々に過ごしやすい様に席の配置をしている。庭にはベンチを設置して自由に外気浴を楽しむことが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には仏壇、家族の写真、数々の思い出の品などを置いてもらい。安心して暮らせるように支援している。	洗面台の設置された居室では、文机と座椅子を持ち込み読書を楽しんだり、仏壇に庭で育てた花と水を備えたりと、一様に個性がある。全利用者が、職員の手助けを受けながら各自で居室の掃除を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内外部はバリアフリー化され、共同スペースは車椅子や歩行器が自由に行きかう事が出来る広さがあり、壁には手すりが設けられて自立した生活が送れるようにされている。		